

ゴミを残さない未来を目指して

国内初の新ごみ処理施設が完成しました！

新しいごみ処理施設、糸魚川地域広域行政組合清掃センターごみ処理施設（炭化システム）が、青海町須沢地区に、平成14年4月に完成しました。従来のごみ処理施設が老朽化したこと、ダイオキシン類の規制が強化されることなどから糸魚川地域広域行政組合が主体となって国、県の補助事業として建設されました。

この施設の特徴は、一般ごみ・可燃性粗大ごみを、炭化炉で蒸し焼きにして炭化することです。炭化中に出るガスは炭化炉を熱するため使用され、できた炭化物は原燃料として再活用される。省資源化・省ごみ化を実現する国内初のシステムを採用しています。

このシステムではごみを燃やせずに炭化するため、今問題になっているダイオキシンの排出量が0.01ナノグラム未満と国の基準の1/500以下に抑えることができます。

また、この新ごみ処理施設では、1日当たり約45tのごみが処理されていますが、炭化処理することで約14tの炭化物となります。最終的に炭化物は、地元のセメント工場で原燃料としてリサイクルされ、埋め立て処分をする必要が無く、最終処分場の延命が図られます。

今後の課題として、従来の焼却処理と比べて、新ごみ処理施設は炭化物処理がコスト的に割高になってしまうこと、炭化物の引受先が不足していることが挙げられます。

しかし、豊かな自然に恵まれた糸西地域を守り続けていくために環境問題に対する意識が高まる中、この施設が果たす役割は大変大きなものです。新ごみ処理施設には県内外から多くの方々が見学に訪れており、さらなる普及が期待されます。

ダイオキシンの激減
炭化物の再利用
最終処分場の延命

今後の新ごみ処理施設の建設予定		
岐阜県・恵那市	北海道・名寄市	愛知県・渥美町
H15.3竣工	H15.3竣工	計画中
処理量40t/1日	処理量20t/1日	処理量60t/1日

家庭

市町

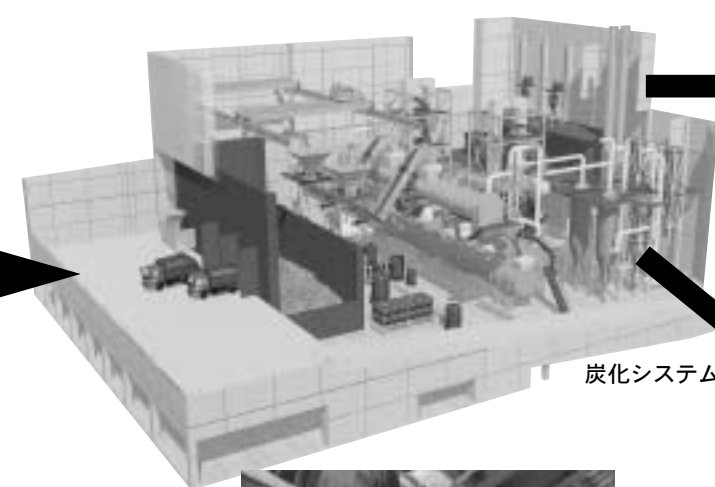
分別
排出

回収

一般家庭からの生ごみ、会社からの紙くずなど糸西地域で1日約45tもの可燃ごみが排出されます。



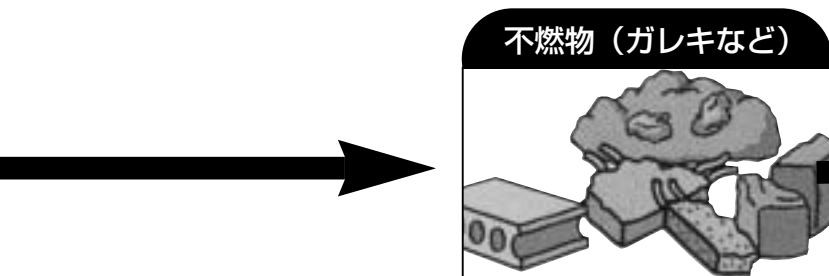
中央操作室



炭化システム



炭化炉（全連続燃焼方式）



埋立

最終処理場へ運ばれ埋め立て処理されます。



鉄



アルミ

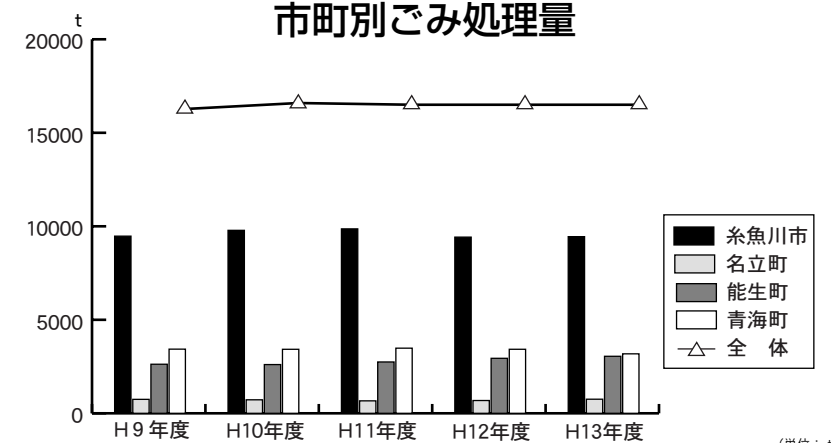


炭化物は地元セメント工場で原燃料として再利用され、焼却灰はセメント原料として利用され100%リサイクルされます。

資源化

再資源化することにより埋め立て処理をする必要がなく、最終処分場の延命にもなります。

市町別ごみ処理量



(単位: t)

	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度
糸魚川市	9,473	9,784	9,562	9,421	9,446
名立町	746	722	666	684	754
能生町	2,624	2,606	2,745	2,941	3,049
青海町	3,431	3,423	3,483	3,424	3,180
全体	16,274	16,535	16,456	16,470	16,429

資料提供：糸魚川広域行政組合、名立町



糸魚川地域広域行政組合 清掃センターごみ処理施設（炭化システム）

大量生産、大量消費、大量廃棄型の生活様式が進むにつれ、日常の経済活動や市民生活が原因となって、ダイオキシン類による環境汚染や地球温暖化など、新たな環境問題が地球規模で起こってきました。特に、廃棄物は、大量に発生し続けるため、埋め立て最終処分場等の確保が困難になってきています。

このような中で、恵まれた自然環境を、私たちの次の世代に責任を持って引き継いでいくために、エネルギーを有効に使い、資源を繰り返し使うことによって、環境に対する負荷をできるだけ少なくする「循環型の社会」に転換していくことが、大きな課題となっています。

施設からみなさんへのお願いとお知らせ

分別排出の徹底

- 可燃ごみと鉄・アルミ・ペットボトル等は必ず分別してゴミ収集場所へ出してください。

生ごみの水切りを！

- ごみを炭化させる際に水分が多いと炭化に時間がかかり、処理費用がかさみます。